Japanese association of educational psychology

たくましい社会性に関する研究（4）

○二宮克美　・　首藤敏元　・　山岸明子
（愛知学院大学教養部）　（埼玉大学教育学部）　（順天堂医療短期大学）

【目　的】たくましい社会性を「円滑な対人関係がとれ、他者との関係を築き、維持・発展させ、その中で自己の要求を実現できる能力」と暫定的に定義し、Solomon ら(1990)の研究を参考に、自立感、自己効力感、共感性、向社会的コンピテンス、向社会的行動経験、学校での友人関係、社会的問題解決方略、対人交渉方略などの多面的な観点から、調査を実施した。本報告（4）では、小学校5年生と中学校2年生の共感性、向社会的コンピテンス、向社会的行動経験の3つの側面についての分析結果を報告する。

【方　法】<質問項目の作成>(1)共感性　Bryant などの研究を参考に、「泣いている子を見ると自分まで悲しくなる」、「叱られている友だちを見ると心配になる」といった7項目を用意し、5段階評定を求めた。(2)向社会的コンピテンス　「だれかを助けてあげたいと思っても、どのように助けたらよいのかわからないことがある」、「悲しそうにしている人を、はげますことができる」などの10項目を用意し、5段階評定を求めた。(3)向社会的行動経験　「けがをした人を助けたことがある」などの8項目に対して、「たくさんしたことがある」から「一度もしたことがない」までの4件法で向社会的行動経験をたずねた。

<被調査者>愛知県内の5つの小学校に在籍する5年生 421名（男子 218名、女子 203名）および2つの中学校に在籍する2年生 421名（男子 211名、女子 210名）の合計 842名（男子 429名、女子 413名）。<調査時期・方法>小5は1994年1月～2月に、中2は11月～12月に、各クラスの担任教員の指導のもとで実施した。

【結　果　および　考　察】

(1)共感性：学年×性別の分散分析の結果、学年および性別の主効果が見られた（ともに$p<.001$）。女子の得点が高く、女子は男子より共感性が高いと言える。また、小5より中2の得点が低く、学年のあがるにつれ共感性が低くなることがわかる。

(2)向社会的コンピテンス：分散分析の結果、学年と性別の主効果が見られた（ともに$p<.001$）。男子よりも女子の得点が高く、また中2より小5の得点が高かった。

(3)向社会的行動経験：分散分析の結果、学年と性別の主効果が見られた（学年：$p<.001$、性別：$p<.01$）。男子よりも女子の得点が高く、また中2より小5の得点が高かった。

(4)この3つの尺度得点から、共通して言えることは、共感性、向社会的コンピテンス、向社会的行動経験のいずれでも、男子より女子の方が高いこと、学年のあがるにつれ低くなることである。

(5)3つの尺度間の相関係数を算出したところ（表2・表3）、男女ともに高い正の相関係数（すべて$p<.001$）が得られ、この3つの側面の関連が強いことがわかる。

表2．3尺度間相関係数（小学5年）
（左下：男子、右上：女子）

	A	B	C
A		.377***	.365***
B	.400***		.564***
C	.421***	.605***	

表1．学年別・男女別の平均値（標準偏差）

		A共感性	B向社会的コンピテンス	C向社会的行動
小5	男子	22.63 (5.23)	29.75 (6.09)	18.47 (4.66)
	女子	25.67 (4.08)	31.38 (5.53)	19.62 (4.75)
中2	男子	20.44 (5.50)	28.35 (5.59)	15.86 (4.49)
	女子	24.68 (4.36)	29.99 (4.74)	16.74 (3.84)

表3．3尺度間相関係数（中学2年）

	A	B	C
A		.412***	.450***
B	.403***		.285***
C	.420***	.432***	

〔本研究に対して、日本生命財団の特別研究助成が与えられた〕

NII-Electronic Library Service